

## 園長だより 「叱る」ということ 第12号

園長だよりの第1号は「ほめる」ことの大切さについてお話をさせていただきました。城東ちどり保育園は「叱って身に付けさせる指導」ではなく「ほめて伸ばす指導」「ほめて全体に広げる指導」を大切にしています。保護者の皆さんにもほめることの大切さ、そしてより効果的にお子さんを成長させる2つのポイント「すぐにほめる」「努力をほめる」についてもお話をさせていただきました。

今回は「ほめる」の対極にある「叱る」ということについてお話をしていきたいと思います。矛盾しているようですが、「ほめて伸ばす」ということをベースにしてお子さんを育てていくことは大切ですが、時には「叱る」ということも大切です。お子さんを成長させる「叱り方」にもいくつかのポイントが考えられます。

お子さんを叱るときに何よりも気を付けていただきたいのは感情的にならないこと。冷静さを欠くとついつい言っではいけないことも言ってしまいがちですし、言葉遣いも乱暴になってしまいますよね。これはお子さんにしてはいけないことをわからせようと叱っているのではなく、感情が先に立ち、単に怒っているということになります。これではお子さんは恐怖のために何が具体的にいけないのかが理解できず、「怖いからやめよう」という思考回路が定着することになります。大切なことは「どこがいけなかったのか」「なぜいけないのか」ということをお子さんにしっかり理解させることです。そのために感情的に「怒る」のではなく、冷静に「叱る」ことを心がけてください。

次に大切なことは「叱る」レベルを考えるということです。お子さんの不注意で保護者の皆さんが大切にしているものを壊してしまった時と公共のマナーやルールが守れなかった時の「あかんレベル」は明らかに違いますよね。感情的になりがちなのは壊された時ですが、公共のルールやマナーを守れずに多くの人に迷惑をかけている方がはるかに「あかんレベル」が高いです。電車の中で騒いだり、静かにするべきところで大きな声を出したりした時はお子さんの目を見て、どこがいけないのか、なぜいけないのかを伝え、厳しく叱ることが大切です。時々、「ほら、電車の中で静かにしないから、あのおじさんが怒ったはるよ。」という叱り方をする方がおられます。これは違いますよね。おじさんが怒ろうが怒らまいが「あかんもんはあかん」のです。

最後に大切なことはその場でしっかり叱ったら、それで終わりということです。いつまでも引っ張らないことが大切です。叱った後はお子さんに「次からは大丈夫だね。」「頑張ってるね。」「信じているよ。」というようなポジティブな言葉かけをしてあげてください。ただ、お子さんは同じ失敗をしてしまうことがあります。1回叱ったから、次からは大丈夫。そんなお子さんはいないですよ。前、叱ったのになあ。」という気持ちは否めないですが、そこでも粘り強く、丁寧にお子さんを叱ってあげてくださいね。

子育ては「ほめる」ことがベースにならないといけません。ただ、時には愛情のある「叱る」も必要になってくるということも忘れてはいけません。